

「三重の文化振興方針（仮称）」の県民意見交換会の概要について

「三重の文化振興方針（仮称）」骨子案及び「博物館のあり方に関する基本的な考え方」について、県民との意見交換会を下記のとおり開催しました。

1 日時及び会場

平成19年10月20日（土）14：00～16：00 県鈴鹿庁舎 46会議室
平成19年10月21日（日）14：00～16：00 県松阪庁舎 大会議室

2 参加者

県民参加者 鈴鹿庁舎：27名
松阪庁舎：30名（竹上県会議員出席）
審議会委員 鈴鹿庁舎：5名（武村会長、川口委員、中村委員、三浦委員、
松月専門委員）
松阪庁舎：6名（中林副会長、今井委員、大矢委員、速水委員、
山田委員、宇野専門委員）
報道関係者 伊勢新聞（鈴鹿庁舎）
発言者数 鈴鹿庁舎：9名
松阪庁舎：6名 複数発言は、除く

3 県民からの主な意見、質問等

【三重の文化振興方針（仮称）について】

- ・三重の文化振興方針の中身はよいが、いつもこのようないいことを書いても実現しない。文化を支える財源とか、経済的な背景について、審議会で求めるのだという姿勢を示すこと。
- ・連携による機能の充実強化に取り組むと書かれているが、施設間のコラボレーションは難しい。こうしたことは10年前から言っている。なぜ進まないかその原因にしっかりメスをいれてもらいたい。

【博物館のあり方に関する基本的な考え方について】

- ・審議会のメンバーに自然系の分野の人が入っていないのはなぜか。
- ・総合博物館とのことであるが、自然と人文の割合をどう考えているのか。
- ・環境面からも自然は大切。子どもたちが学ぶ場がないので、自然系を充実してもらいたい。
- ・総合というのなら、斎宮歴史博物館、各地の歴史資料館などの博物館には人文系のものが多いため、これらをあわせて、総合とする考え方で、足りないものだけ（自然系博物館）を作ればいい。

- ・公文書館を含めると書いてあるが、博物館では閲覧が制限されるので、博物館とは個別に考えるべき。
- ・総合には非常に深いものがある。自然と歴史文化がかみ合った総合であってほしい。単に並べたものではない。
- ・学芸員を選考される場合には、専門性の視点からだけでなく、若い人への指導や子どもたちの好奇心を見つけてくれるような教育の視点から、素晴らしい方をお願いしたい。
- ・学芸員を育てる話があったが、館長がコーディネート役となる必要があるとあり、新博物館に際しても、館長候補を早く決めるべきである。
- ・ハコモノ行政が批判されるなかであっても、20数万点の収蔵庫が必要であり、借金してでもつくるべきである。
- ・つくるとなれば、三重の特性を活かした他の県にないユニークな博物館をつくるべきである。
- ・三重の作家について私たちが作った資料もあり、収蔵に悩んでいる。すべての分野を入れるのは財政的にも規模的にも無理と言うことはわかる。例えば、文学が小さなコーナーであって、充実して利用度が高くなれば、将来、独立してどこかに建てるということ、10年、15年先でできるという展望がもてるものとしてほしい。
- ・鉱物収集を例にとると、収集者が亡くなって収集した資料が散逸してしまう恐れがある。地域の学校や郷土に埋もれている資料を収集、データベース化していただける博物館としてほしい。
- ・研究活動を発表したいという場、それを受けたい、知りたいという県民の方々の「県民の教室」としたら、開けた博物館となるのではないか。
- ・ここへくれば三重の全てがわかる、全国的なネットワークもある、ここへ行けば調べられるという壮大な構想にしてほしい。
- ・一度つくれば、50年は使う。他にないいいものを作ってほしい。
- ・移動展示（ゾウの展示）では子ども達の目つきが違った。今の高校生も話しかけると興味を持ってくれる。こうした子どもの教育や、後世に残すことに博物館の機能、役割がある。
- ・連携、コラボレーションについても整理して書かれているので、今までの点と線から、面的な機能をもった博物館になると期待している。
- ・全く新しい博物館となるのか、リニューアルか、現博物館は昭和の遺産であるので、現博物館の外観だけでも残すように工夫してもらえないか。

4 今後の予定

県民からの意見等については、ホームページに掲載するとともに、今後文化審議会でも報告し、12月の「三重の文化振興方針(仮称)」中間案や「新博物館のあり方について」素案に活かしていきます。また、これらの中間案や素案については、県民へのパブリック・コメントや公聴会を開催するなど、引き続き、県民の方や関係者の方のご意見をお聞きしていきます。